

中田賢次さんを送る

富 永 健（化学教室）

中田賢次さんは、昭和22年春、理学部化学教室木村研究室の職員になられてから、この3月末で定年退官されるまで、42年もの長い間化学教室に勤務され、技官（教務員）として、また昭和63年からは助手として教室のために大きな貢献を果たされた。

木村研究室では、主に発光分光分析を担当して地球化学試料の分析など、故木村健二郎教授の研究を補助された。ついで斎藤研究室においても、分光分析や放射能分析などに従事されるとともに、昭和38年以降は学部学生の無機化学・分析化学実験において、中田さんは岩石の全分析や、とくに分光実験に助言と指導を行われた。この間に実験室で中田さんのお世話になった化学科出身者は、おそらく1,000名をこえるものと思われる。昭和50年に斎藤研究室から化学教室の薬品室に移られ、化学薬品などの管理を担当し、教室の研究活動を支える蔭の力として大変重要な役割を果たして来

られた。昭和59年には日本分析化学会の有功賞を受けておられる。さらに、危険物取扱者、水質管理責任者、都公害防止管理者、防火管理者などの資格をつぎつぎに取得され、危険な薬品や溶媒の管理、実験廃液の回収など安全・環境面で幅広く、化学教室のみならず理学部としても中田さんのお世話になるところが大であった。中田さんは温厚で控え目なお人柄であるが、仕事に関しては積極的に責任感が強く細心な方であり、教室が安全管理の面で永らく無事に過ごせたのも、ひとえにこのような中田さんの御尽力のおかげである。

中田さんは若いときから長く教室に居られたので、戦後間もない頃から今日までの教室のいろいろな事情に通じておられ、教室出身のわれわれの大先輩の学生時代のエピソードなどを折にふれて伺ったものである。筆者の個人的な関りで恐縮であるが、私自身の中田さんとの出会いは、昭和32年の冬、卒業研究について斎藤信房教授からいた

だいた試料（イオン交換樹脂に吸着した錯体）が中田さんの調製されたものであったと記憶する。以来昭和50年まで同じ研究室のスタッフとしてお付き合いいただき、またその後私が研究室を主宰してからも経理その他いろいろな面で中田さんの助力を仰いだものである。

永年、教室のすべての人々から信頼され、親しまれた中田賢次さんが此度退官されることは、教

室にとって誠に残念なことであり、大きな損失である。また、中田さんが退職されると、教室の「ふるき良き時代」を知る人がいなくなることも大変淋しいことである。40有余年に及ぶ化学教室への献身に対し、お世話になった多数の関係者にかわって心から御礼申し上げ、また中田さんが今後ますますお元気で、充実した新たな人生を楽しまれるよう心からお祈り申し上げたい。